

今号の主な記事

- ◇外国人英語教育サポーターを募集…2面
- ◇「西宮国際交流デー」開催……………2面
- ◇平成19年消防概況まとめ……………3面
- ◇所得税・市県民税の申告は
3月17日までに……………5面



渡り鳥も西宮の水辺を楽しんでいます

これまでの下水処理方法(標準活性汚泥法)では、下水中の汚濁物質(有機物)の大半は除去できませんが、赤潮の発生原因である窒素やリンなどの栄養塩類は除去することができません。

甲子園浜浄化センターでは植生酸化安定池を設置して一部の処理水を対象に栄養塩類の除去に努めてきました。このたび、新たに大阪湾の水質環境基準を達成するための大阪湾流域別下水道整備総合計画が策定され、窒素やリンの除去が可能な高度処理方式の導入が義務付けされたことから、市は、甲子園浜などの水質改善のために浄化センターの高度処理化を推進していきます。

高度処理の導入

JR東海道本線より南側地域の大半は、合流式下水道で整備されています。

合流式下水道は、雨水と汚水(生活排水)を一本の下水道管

合流式 下水道の改善

で流すため、浸水対策と生活排水の処理を同時に効率良くできる方式として大都市を中心に採用されてきました。

しかし、一定以上の雨が降り、浄化センターの処理能力を越えると、汚水と混合した雨水が海に放流されるため、海域の水質に悪影響を及ぼさないよう、水

環境を改善する様々な対策が必要になります。この対策を「合流式下水道の改善」と言います。

市は、平成17年度からこの改善事業に着手し、浄化センターの能力増強や既存水路を使った分流化や処理出来ない下水を一時的に貯留する施設の建設などを行っています。



きれいな海にはヨットがよく似合います

ネットワーク事業は災害時の備えにも

市は、平成19年度から甲子園浜浄化センターと枝川浄化センターを下水道幹線をつなぐネットワーク事業に着手しています。

ネットワーク管は、高度処理のために枝川浄化センターから甲子園浜浄化センターへ汚水を移送する機能のほか、合流式下水道の改善に必要な一時貯留施設として計画されていますが、2つの浄化センター間で汚水をやり取りすることで地震などの災害発生時や施設の大規模改築時にも安定した下水処理が可能になります。

次世代に向けて

昭和30年代までの甲子園浜や香櫨園浜、御前浜は、海水浴場として大変に変わっていました。

市は、次世代に向けて、再び泳げる海を取り戻せるように「美しい海浜のあるまち西宮」を創造していきます。

下水道の高度処理化に 取り組みます

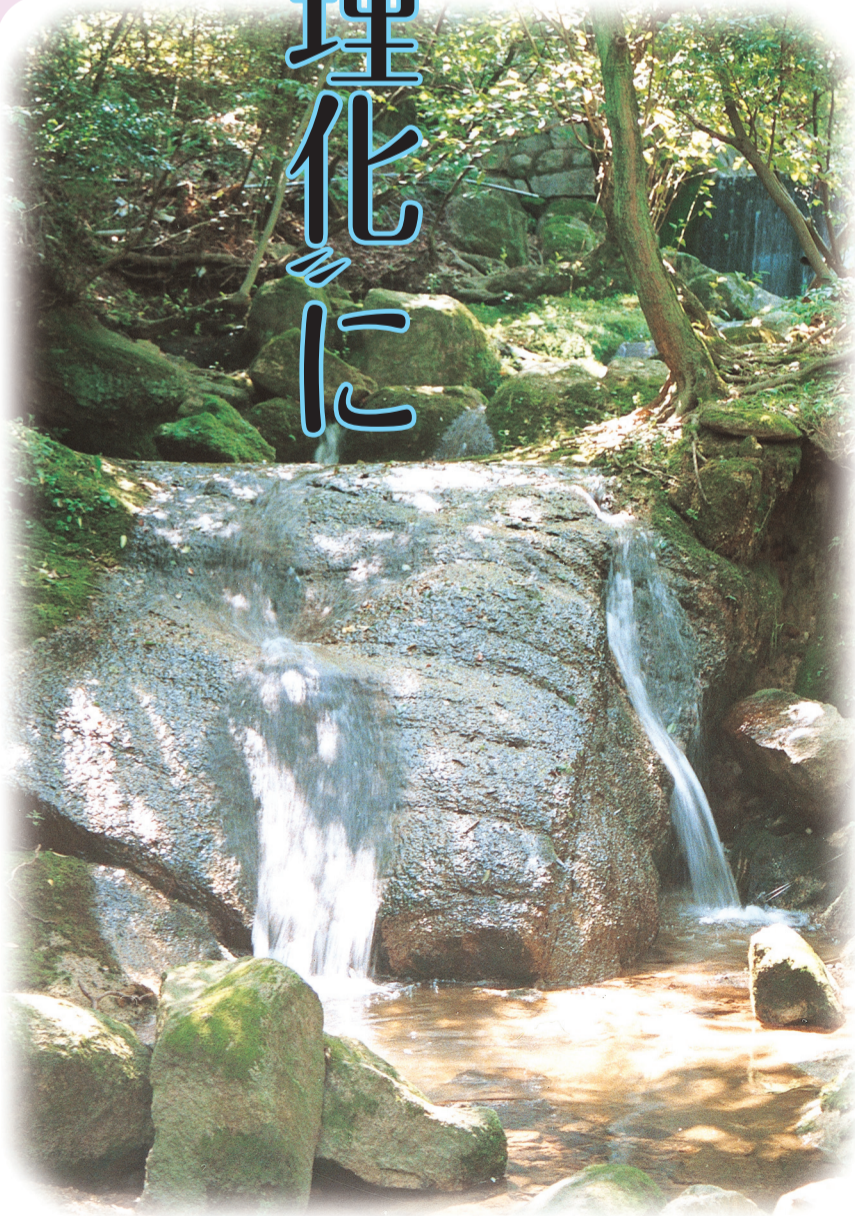
豊かな水環境を 次世代へ

西宮市の下水処理人口普及率は、おおむね100%になり、皆様のご家庭から排出される下水は、川や海に直接流されることなく下水道管へ導かれ、浄化センターで処理できるようになりました。

昭和40年代の高度成長期には、洗剤の泡で真っ白となり悪臭を放っていた川や水路が、今では、魚や鳥の生息する豊かな自然を取り戻しています。一方、甲子

園浜や香櫨園浜などの海域の水質は、まだまだきれいになったとは言えず、大阪湾では魚や貝などの生態系に悪影響をおよぼす赤潮の発生が年間数十回報告されています。市は「合流式下水道の改善」や「高度処理」の導入を行い、さらなる水環境の改善に積極的取り組みます。

問合せは計画整備グループ(0798・35・3777)へ。



市長からのメッセージ



山田 知市長

山・川・海と自然豊かな環境に恵まれた西宮は、平成15年12月に全国でも初となる「環境学習都市宣言」を行い、市民一人ひとりが環境問題について学び、やるべきこと、できることを考え環境をよくするための行動を実践していくことを表明しました。市民の皆さんには、リサイクルやエコウォッシング活動に取り組んでいただき、大変感謝しております。

市も、水環境の改善のため、これまで下水道の整備を進めてきました。その結果、環境省で発表された夙川の水質改善率(BOD)が全国で第2位となり、また、魚や水生動植物の姿を目にする機会が増えました。皆さんも清流の復活を実感されていると思います。

しかしながら、四方が陸に囲まれた大阪湾では、海水の循環が難しく日常生活から排出される窒素やリンによる富栄養化により赤潮などが発生し、生態系に悪影響を与えています。

このため今後も、「高度処理」の導入や「合流式下水道の改善」などを実施し、阪神間に残る貴重な自然海浜である甲子園浜や香櫨園浜・御前浜などの水環境改善への取り組みを積極的に推進していきます。美しい波が打ち寄せ、渡り鳥が憩い、子どもたちが自然とふれあえる、素晴らしい海辺を取り戻しましょう。